

小学校英語活動支援員として 実践の1コマ

狭山市立入間野小学校 英語活動支援員 木村 利香



1 狭山市での小学校英語活動の取り組み

狭山市は、平成15年9月の構造改革特別区域法により、「外国語早期教育推進特区」として認可され、市内7小学校で「小学校英語活動」が始まりました。平成16年度からは、市内全小学校(17校)で行われるようになり、どの小学校でも一律に英語活動が実施できるように、教育委員会からの委嘱を受けた英語教育推進委員会が「狭山市小学校英語活動指導資料」を作成し、小学校1・2年生は年間10時間(生活科から)、3年生以上は、週1時間、年間35時間(総合的な学習の時間から)の指導内容を設定しています。また、毎年8月の夏季休業中には、市内27校の児童・生徒が参加する2泊3日のSummer Camp、2月にはEnglish Festivalを行っています。

(1) 指導形態は、チームティーチング(TT)

担任の先生と英語活動支援員(市内の小学校に1~3人ずつ配置されている)とのチームティーチングで指導しており、入間野小学校も、狭山市の指導計画・指導内容に沿って取り組んでいます。文部科学省の『英語ノート』は、狭山市小学校英語活動指導資料とリンクしている所を活用しています。

(2) 授業の基本的な流れ

① **Greetings** “Good morning, everyone. How are you today?”, “What is the date today?”, “What day is it today?”, “How is the weather today?”, “What time is it now?” など担任の先生が質問すると、児童は大きな声で元気に答えます。

② **Warm up song** テーマに合った歌を選曲し、リズムに乗って体を動かし、明るく楽

しく歌います。

③ **Useful expression** 担任の先生と英語活動支援員とで、授業時間に学ぶ学習表現・会話の見本を示します。

④ **Activity 1, 2** カードゲームなど、いろいろなアクティビティを行います。

⑤ **Sum up & Good-bye** 担任の先生によってその日の活動のまとめと終わりの挨拶をし、元気よく Good-bye Song を歌って終わります。終わりの挨拶のあと、英語活動支援員とその時間に習った会話、ハイタッチをして、次の再会を約束します。

入間野小学校では、英語活動支援員は英語のみで会話の見本、ゲームの説明などを行います。担任の先生も基本的には英語を使いますが、児童の様子を見ながら日本語でヒントを出し、説明をします。

2 授業における工夫

英語活動支援員は、児童の性格や個性を把握している担任の先生と相談しながら内容をふくらませています。

○常に子どもたちが中心となって進めていけるよう工夫する。

○発展性のあるもの、「楽しい! 次はこうしたい!」と思わせるような内容にする。

○活動内容、形態に変化をもたせて意欲を高める。

○支え合い、助け合って学習できるようにする。

○活動内容によ



り、英語教室、各教室、体育館など、場所を変えて行う。

英語のTTは、担任の先生とのコミュニケーションが不可欠で、自然な流れで児童とともに時間を過ごすことが大切だと考えています。

(1) 教材の工夫

児童が教材作りに参加することもあります。例えば「買い物ゲーム」では、カレーを作りたいグループがお店に買い物に行きます。既製のカードにはニンジン、タマネギ、ジャガイモのカードはありますが、福神漬、ラッキョ、カレールーはないので、その場で店員役の児童が絵を描き作成します。題材「Is this your pencil? Yes, it is. / No, it isn't.」のときは、各自がオリジナル鉛筆を描いて作成、友だちと会話しながら自分の鉛筆を探すゲームをしました。こちらがあらかじめ用意したカードや教材でも、いつも楽しく活動している児童ですが、自作の教材を使ったときには、さらに笑顔が増しているようにも思えます。

学校内にはたくさんの教材の宝があります。算数に使う時計、サイコロ、おはじき。家庭科で使う鍋、フライパン。社会で使う日本地図、世界地図。時には、トランプを見つめながら、何ができるかを考えます。児童がよく知っている「七並べ」のルールから「I get up at 6. I eat lunch at 12. I take bath at 9. I go to bed at 10.」のゲームができました。あるものからゲームを考えるのです。テレビ番組からヒントを得ることもあります。歌や振り付けも、合うものがなければ、作ればよいのです。

(2) ボディーランゲージの大切さ

“What sports do you like? I like baseball.” “What do you want to be? I want to be a singer.” “Can you play the piano? Yes, I can. / No, I can't.” 初めての単語に触



れるときには、始めから絵カードを見せてリピートさせるのではなく、そのスポーツ、職業、楽器を児童がジェスチャーで友だちに伝え、当てるアクティビティを行います。ここで大切にしていることは、相手に伝えたいと思う気持ち、分かりたいと思う気持ちです。これがコミュニケーションの基本だと思っています。万国共通のボディーランゲージ、そこに言語がプラスされることにより、会話を楽しむことができ、世界観が広がっていくと考えています。

2年前、アメリカの高校生とその保護者が来校し、当時5年生の児童たちと交流をはかりました。1人の児童が「先生、僕の英語が通じません。」と泣きそうな声で言ってきました。「気持ちを込めれば通じるよ。」とアドバイスをすると、彼は、「I love you.」と高校生のお父さんに真顔で言っていました。一生懸命気持ちを込めて、自分の知っている英語で会話をしている児童たちが、とても頼もしく見えました。

3 小・中学校接続のありかたについて

6年生に行った英語活動についてのアンケートで、「中学生になって、どんな英語の勉強をしたいですか。」の回答に、「難しい単語を覚えたい。」「長文をスラスラ読めるようになりたい。」「書けるようになりたい。」「英語の先生やALTの先生と会話をしたい。」などがありました。私もそうだったように、ドキドキワクワクした気持ちを持って中学校に進学してほしいと思います。そのためにも、小・中学校それぞれの英語学習への取り組みや、活動内容を理解し、意見交換していくことが大切です。「聞く・話す」を主とする小学校の段階から、中学校での「読む・書く」が加わる学習内容に広がり、英語がブラッシュアップされなければなりません。これからも、児童が英語を好きになれるような手助け、向上心をかき立てるような活動を展開できるよう努力を続けていきたいと思っています。